

平成28年度 第5回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 高階地区 ～



日時：平成28年11月17日（木）

午後6時30分～8時00分

場所：川越市南文化会館

参加者

高階地区 26名

出席者

市長、栗原副市長、板東副市長、危機管理監、総合政策部長、市民部長、福祉部長、こども未来部長、環境部長、都市計画部長、建設部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・外遊びの出来る場所	5
都市基盤・生活基盤	4	・新河岸側竣工記念行事 ・高階地区内グラウンドの設置 ・新河岸駅周辺の活性化 ・寺尾調節池	4 13 14 20
地域社会・市民生活	2	・新河岸駅前交番の移転 ・バーチャル交番	5 16
住民自治・行財政運営	3	・高階地域会議の取り組み ・地域のおまつり ・地域会議の活動資金	2 10 11

そ の 他	1	・自衛隊機の川越上空通過	18
	11		

意見交換（要約）

《高階地域会議の取り組み》

意見 高階地域会議は、平成 27 年 3 月 26 日に、高階地域の課題等の把握に努めるとともに、高階地域の魅力について再発見、再認識するような取り組みを進めることを方針として、地域活動団体 37 団体、50 名の皆様にご参加いただき発足いたしました。

組織でございますが、意思決定を行う全体会議のほか、三役会、幹事会、詳細な協議や検討を行う青少年委員会、地域福祉委員会、防犯・交通委員会、産業・文化委員会の 4 部会を設けております。

平成 27 年度は、設立総会におきましてご確認をいただきました諸問題を幹事会及び 4 部会に付託して協議・検討を進めるとともに、新たな地域の課題等の把握や高階地域の魅力を再認識するような協議・検討を進めてまいりました。

次に、活動状況でございます。全体会議 1 回、三役会 3 回、幹事会 5 回、4 つの委員会でそれぞれ 3 回の会議を開催し、全体会議を含め、21 回の会議を開催したところでございます。

平成 27 年度の事業として、高階地区内の現地視察及び先進地視察を実施いたしました。内容でございますが、高階地域の魅力を再発見する取り組みといたしまして、産業・文化委員会では、委員の皆さんのほか川越市の関係課の職員及び事務局職員など 15 人の参加により、新河岸川旭橋付近から寺尾調節池までの新河岸川の現地調査を行いました。

また、高階地域会議の参考とするため、先進的な取り組みを行っている群馬県前橋

市南橋地区地域づくり推進協議会を視察いたしました。実施日時は、平成 28 年 2 月 16 日火曜日でございます。

平成 27 年度の成果でございますが、初めに、新河岸駅橋上化に伴う課題については、幹事会及び産業・文化委員会において、竣工式や記念イベントなどの話し合いを行ってまいりました。

次に、青少年の健全育成について、青少年委員会では、青少年の健全育成の推進を図るため挨拶運動を実施することとし、そのため、のぼりや横断幕を作成してはどうか、また、交通安全の促進のため自転車の乗り方の啓発を実施してはどうかなどの検討が行われました。今後、自転車の乗り方などのポスター展の実施を検討していく予定でございます。

高齢化問題に関するさまざまな対応については、地域福祉委員会において、高齢者が集えるサロンの実施の検討のため、各自治会への調査を行いました。

空き家住宅等の把握と対策につきましては、以前から高階支会で火災等の発生が懸念される空き家住宅を地図に落とし込み、自治会ごとの空き家所在地を示した資料の作成を進めておりました。平成 28 年度に作成した資料を市の防犯・交通安全課、川越警察署生活安全課、川越中央消防署高階分署に配付いたしました。

また、防犯・交通委員会においては、災害時の帰宅困難者対策についても検討を行っております。

最後に、産業・文化委員会では、地域活性化の取り組みとして、新河岸駅の橋上化等を契機に、新河岸川を核とした地域活性化の取り組みについても進めていくことが検討されております。

最後になりますが、平成 28 年度の活動方針及び取り組みについてでございます。

平成 28 年度も 27 年度と同様に、引き続き各課題について協議・検討を進めておりますが、一部については具体的な事業を図るための検討を進めております。具体的には、地域福祉委員会で各自治会へのサロンの設置の参考とするため、本年 10 月 25 日に先進地域であります南古谷地区の古市場・渋井いきいきサロンの視察を実施いたしました。また、青少年委員会では、挨拶運動を進めるための横のぼりの作成を予定しております。さらに、新河岸駅の橋上化と駅前広場整備等の竣工に伴う記念イベントを行うため、高階支会と地域会議が連携して協議・検討を行うための組織を立ち上げることを予定しております。なお、記念イベントの実施に向けた参考とするため、11 月 15 日火曜日に J R 中央線の武蔵境駅を視察いたしました。

平成 28 年度の活動状況でございますが、全体会議 1 回、三役会 3 回、幹事会 2 回、4 部会で述べ 9 回の会議を開催し、全体会議を含め 15 回の会議を開催しております。高階地域会議の取り組みの説明は以上でございます。

《新河岸駅竣工記念行事》

意見 先ほど説明でも申し上げましたが、現在、新河岸駅の橋上化及び東西駅前広場等の整備工事が進められております。工事の竣工に当たって、市も竣工を祝う事業が行なわれることと思います。私も高階地区といたしましては、長年の悲願であった新河岸駅及び東西の駅前広場が整備されますことから、地域を挙げて応援の事業を行いたいと考えております。12 月には、高階支会が中心となり、地域会議の皆様にもご参加いただき新河岸駅記念行事の実行委員会を設置して、どのような記念行事とするのか協議・検討を進めていくことを予定しております。

つきましては、高階地域の思いを川合市長はどのように思われるでしょうか。私もこの思いに共感していただけるならば、市としてどのようなご支援を行えるとお考えでしょうか。お聞かせ願えたら幸甚でございます。

市長 橋上化が完成したときの記念事業への支援、協力という点でございますが、お話に出てまいりましたように、市といたしましても、竣工のときは竣工式典を行うというのが通常でございますので、それはそれで実行させていただきたいと考えております。地域の皆様方が別個記念事業をやられるという方向で計画を立て進められているということであれば、市としましてはご協力できる部分、例えば場所、広場あるいは道路を使う場合はその辺のところのご協力であるとか、あるいは鉄道事業者に係る部分については、鉄道事業者さんの間をつなぐという協力をすることはできますので、その辺りについて十分協力させていただきたいと思っております。

また、これは全くの思いつきなんですけれども、新河岸駅の駅舎の竣工式典を、地域の皆さんとそれから行政は行政で別個にやるのではなくて、一緒にやっちゃえば。そういうやり方もあるのかなと、今、ふと思ったんです。そうすれば、大勢の人が来てくれるでしょうし、大体行政の式典というのは、関係者と近所の人々がぱらぱらと来るぐらいなんですよね。そういうのと、またそれとは別個に地域の皆さんの式典をやるのだったら、いっそ合体しちゃって、一つの盛大な式典にしちゃうというのもありかなという、ちょっと今、ふと。

意見 賛成です。

市長 それはこれから検討を進めなければならないとは思いますが、すけれども。

《新河岸駅前交番の移転》

意見 新河岸駅の橋上化等の工事により、駅の位置が川越駅寄りに約 100 メートル移動することになります。したがって、現在の新河岸駅前交番が「駅前」という位置からかなり隔たった位置となります。私どもといたしましては、防犯上の観点から新しい駅のそばに交番を移動してほしいとの要望を持っております。既に平成 27 年 10 月 30 日に高階支会役員連名で川越警察署へ要望書を提出しておりますが、移転につきましては現在の駅前交番の耐用年数や新たな建設用地の確保など多くの課題がございます。

そこで、川合市長はこのような状況をどのように考え、もし私どもと同様に課題であるとお考えいただけるとすれば、どのような対応を図っていただけるのかお聞かせ願えたら幸甚でございます。

市長 交番の移転というのは、いろいろな条件が整わないと難しい話でございます。市としても県警本部や川越警察署とその辺についての話し合いはしているところではありますけれども、場所をどうするのか、あるいは移転費用をどうするのか、というような問題について、例えば、市の要請でこちらへ移ってください、という場合は市で建てなければならないというようなこともありますので、駅のオープンの時期に交番の問題を間に合わせるといえるのは、正直言って大変難しいという状況でございます。

ただ、いろいろな面から考えて、やはり駅前に交番があるというのが一番良いあるべき姿であると思っておりますので、それに向けて引き続きいろいろな形で協議等を進めていきたいと考えております。

《外遊びの出来る場所》

意見 先ほど青少年の委員会を開きました。この委員会は高校の校長先生だとか小学校の校長先生、中学校の校長先生、PTAのお母さんたち、それからジュニアリーダーの関係の人、あとは子どもたちの運動少年団みたいなものを行っている人たち、いろいろな方に入ってもらい、やっていただいているのですけれども、そこでそれぞれが今感じていることをみんなで出し合ったという状況なんです。その中でちょっと、ああそうなのか、と思ったものがありましたので、お話をさせていただいて、ご意見をいただきたいというふうに思っております。

P T Aのお母さんからのご意見で問題として上がってきたのが、子どもたちが自由に遊べる場所がないことです。特に小学校について、公園はありますけれども、ボール遊び禁止、キャッチボールもサッカーもだめ、そういう公園ばかりです。では、子どもたちはどこで外遊びをやれるのかというと、やれる場所がないんですよ。校庭はどうなのかというと、校庭は例えば低学年が先に下校した後でも、校庭では高学年が使う可能性があるから遊べない。遊べるのは3時4時になってしまい、その時間だとすぐに帰るようだと。

高階南小学校などは土日は校庭を開放していただいています。でも、使用団体が結構あって、大人、高齢者、そういう方が使う。私もその一員で、ソフトボールを日曜日にやっているんですけども、校庭開放で使わせていただいている、12時までは大人のソフトボールをやっています。それから先はスポーツ少年団が使います。そうになると、今、子どもたちが元気に遊ぶまちづくりというようにできる環境がないのではないのかというふうに考えています。

あるジュニアリーダーの方からお話を聞いたのですけれども、東京都だとか朝霞なんか「プレーパーク」と言われる場所をつくって、NPO法人がそこを見ながら、それこそ野球をやる、サッカーをやる、泥んこの遊びをやる、いろいろな遊びがやれる自由な大きな広場をやっているというようなお話を聞きました。私もインターネットで調べたら、そういうふうなものをやっていると。そこでは、事故が起きててもそれは自己責任だというふうなことをしっかりと訴えながら、やる場所があると。

高階地区は、そういう意味だと町なかではありませんので、土地さえあれば幾らでも使えるし、つくれるのではないか。例えば、広場とかはありませんけれども、寺尾の遊水池、あそこは規制があるでしょうけれども、ああいうふうなところなんかを利用して、川が流れている、小川が流れている、そういうところに子どもたちが自由に遊べるようなところ、大人のボランティアが見守るみたいなところで遊べるようなところがあると最高だなと。子どもたちは下校した後に自由に。我々は三角ベースで野球をやりました。あのころはサッカーはありませんでしたけれども。

そういうふうなまちづくりというのもあるんじゃないのかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

市長 おっしゃるとおり子どもさんが外で走り回って遊べるような、そういう場所がほとんどないと、極めて少ないという状況であるというのはもう大分前から言われていることをごさいますて、なかなか行政としても対応が難しいところであります。

もちろん例えば適当な土地をお借りして、プレーパークみたいなそういうようなものをつくるということも考えられるところではありますけれども、土地自体が広くて、ほどよい値段で貸してもらえそうな場所がなかなか見当たらないというのも一つの実情であります。これからそういう場所探し、あるいは校庭をもう少し違った形で子どもたちに使わせることができるかできないか、その辺の検討を加えていきたいというふうに思っております。

寺尾調節池については、今でも子どもさんも自由に入れる場所ではないんですか。
意見 入るのは入れるんですけども、中で遊ぶというのは今のところできない状態なんですよね。

市長 禁止されているんですか。

意見 禁止はしていないけれども、遊べる場所がないんですよね。たまたまこの間、橋をつくって、そこが通れるぐらいで。あとは子どもたちが魚釣りとかそういうので、新河岸川で遊ぶことはできるけれども、ちょっとボール遊びだとか何かするようなのは、全くないんですよね。そういうのは前から寺尾としても言うてはあるのだけれども、「中は水をためるところだからだめだ」とかいろいろなことを言われてしまって、なかなか前へ進まないというかね。

この間、草を刈ってもらったのですけれども、中のほうも昨日視察して見てもらいました。あの部分だけ草を刈ってもらって、それで少し砂利でも敷いてもらえれば、本当に子どもたちが遊ぶのに格好の場所で、土手で囲まれているからボールを投げたって外へ行かないし、そういう面ではいいなと思っているんです。どうかあそこを何らかの形で各部門が一緒になって検討していただければありがたいと思っています。

市長 昨日見させていただいて、アシを刈ったところがかなり広くあって、ああいうところで子どもが走り回れるような、そういう使い方をしたらいいのかなというのも先ほどふと頭に浮かんだんですけれども、少しぬかるみが多いということであれば、砂利を入れるとかそういうことができるかどうか。あそこは県の管理なんですよね。ですから、県が首を縦に振ってくれないとちょっとどうにもならないことなんですけれども、その辺のところはちょっと県のほうと相談して、いろいろ働きかけはしてみます。

こども未来部長 貴重なご意見をありがとうございます。

今、プレーパークというご提案がありましたけれども、「児童遊園」といいまして、高階地区にも10カ所ほどあると思うんですけれども、今年度、青少年相談員ですとか市の職員ですとか「プレーリーダー」と言われる人の指導のもと、余り広くはない

と思うのですが、水を使ったりとかですとか、砂を流したり、実際にスコップで、ビニールシートを広げて、落ち葉をどういうふうに使おうとか、そういうふうな試行的なものを大体2月ぐらいまでに、市全体なんで4回ほど試しにやっ払いこうというふうに思っております。

小規模かもしれませんが、こちらの登録している青少年相談員にもご協力をいただきながらやっ払いこうと考えております。地域によってはまだ少しお時間がかかるかとは思いますが、そのような方向で考えていきたいと思っております。

意見 ありがとうございます。

ただ、私たちが思っているのは、元気に走り回っている子どもたちの姿。これをやっ払いもう一回復活させないといけないのかなと思っております。言い方は悪いですが、ちまちましたものではだめだというふうに思っております。

例えば、高階南小学校地区のところと言うと、ちょっと大きめの公園が5つ6つぐらいあるですけれども、藤原町に第一公園と第二公園があるんですよ。これを例えば簡単な話、どちらかを遊具を全部外して、ボール遊びオーケーにするだけでもまたちょっと違うんじゃないかなと思っております。例えばの話です。

市長 子どものための走り回れるようなそういう広場という問題については、例えばとして、藤原第一、第二公園の遊具を外して、そこでボール遊びかというような形にしてもらえないかというご意見ですが、この点についてはいろいろな意見があります。小さいお子さん方はぜひ遊具をつけてほしいと、そういうようなご要望があつて、なかなか難しいところではありますけれども、例えば、どの程度の広さがあるのか、私は現地がイメージできないのでわからないのですけれども、そういうことがどちらか片方だけでも可能であるかどうか、それは検討させていただきます。

それと、広場について、学校の校庭の使い方については教育委員会で何か考えはありますか。例えば少年野球などのクラブスポーツであるとか、大人の方のソフトボールなどがかなりの部分を使ってしまうということであれば、隔週ごとに土曜か日曜どちらかは完全に地域の子ども対応としてしまうとか、そういうことも考えられなくはないと思うんです。一定程度ソフトボールクラブの人とか少年野球のチームの人たちに時間を制限してもらって、というようなこともできなくはないだろうと思うのですが。

学校教育部長 今、お話しいただいた土曜、日曜に関しては、学校開放ということで、相当数の団体から学校に要請がございます。その点で日程を合わせるということ自体

が難しくなっているくらい活用されている状況でございます。これは課題かなと思っております。

また、教育委員会からは、月曜から金曜までの放課後に関しては子どもたちに開放するよということ、小学校の校庭になりますけれども、そういうこと凶っております。そこで元気に遊ぶという形をとらせていただいているところでございます。やはり子どもたちの元気というのは、大人にとっては非常に良いものだなと思っております。

意見 校庭は私も校庭開放で委員をやっていますのでよくわかっていて、大人が元気よく遊ぶところというのもないんですよ。ですので、怒られちゃうんですよ、結局。ソフトボールを少し制限しろと言われちゃうと。困ってしまうんですけども。

市長 ですから、要するにバランスといいますか、今、地域の子どもさんが例えば土日に全く使えないような状況であれば、土曜か日曜のどちらかの半日ぐらいは学校開放をやめちゃって、地域の子どもだけに開放するような、そういうようなことを考えてもいいのかなという。

意見 土曜日ね。

市長 それは、具体的なやり方についてはまたいろいろ詰めなければならないことが多いかと思っておりますけれども。そういう発想をしてもいいのかなという、そういうことなんです。

意見 寺尾小の場合には、土曜日半日、学校を児童のためにあけてあります。それは、寺尾は本当に端っこですので、利用団体が少ないという、いいのか悪いのかわかりませんが、そういう面があります。

それで、土曜日の午前中をあけてあるにもかかわらず、足りないんですね、やっぱり。親子で遊びたいのはそこだけじゃないんですね。どういう現実があるかという、学校が始まる前に遊びに来ている子どもたちがいます。始業前に遊びに来て、一度お家に帰って集団登校をしています。だから、5時とかに起きて、6時というその辺で遊んで、夏なんかそうです。そこまで遊び場というか、主にやっているのがサッカーとバスケですけども、そういう状況なんですね。

あとは、遊び場がないので困っている者は、夕方、時間が終わってから入り込んでくる。完全にシャットアウトはできませんから、あけてある場所が必ずありますから。だから、現実はそのようなところだということ認識していただければありがたいんですけども。

《地域のおまつり》

意見 小学生は、例えば高階南の七町の話で言えば、七町合同の運動会をやります。盆踊りをやります。お祭りを各町会でやって、最終日は曳っかわせをやります。ということで、小学生が参加できる大きな行事を年間3つやっています。

ところが、中学生、高校生と一緒にやるということになると、これが全くやれていないというのを青少年委員会の中での課題として認識しました。どうやったら良いのかという話があります。これはとても難しく、中学生、高校生が魅力ある行事、事業をやるとなると、大変で難しいということを思っています。

伝統のあるお祭りだとかそういうふうなものが高階地区にあつたりするとすごく良いなと思っています。私は転勤していろいろなところに行つたのですが、浜松まつりなんか本当にすばらしいですよ。小学生、中学生、高校生、20代、30代の人がいっぱい参加する、しかも自治会単位に山車を出して、すばらしい盛況な祭りです。

七町は、それぞれ自分たちの手づくりの山車を持ったり神輿を持って、川越まつりとあわせて協賛事業としてやっています。だから、市も川越まつりだけではなく、そういうところに目を向けて、もう少し支援をしていただければありがたいと思っています。

例えば熊野町ですけれども、山車を持っています。これは完全な手づくりで、軽自動車の荷台を全部取っ払って、その上に自分たちで鉄を溶接してつくつた山車があります。でも、山車の置き場がなく野ざらしです。また、藤間南さんは公園がないので、子どもたちを集めてわっと騒ぐようなそういう場所がありません。熊野町は公園があります。

そういうふうなお祭りをやるにしてもすごくやりにくいというか、協賛金2万円いただきますけれども、これだけではとてもとてもという感じでやっています。一度、来年でも市長に来ていただいて、曳っかわせ、七町が集まって十字路のところで。川越まつりの曳っかわせみたいじゃないですよ。そこで子どもたちが踊ったり、みこしを担いでぐるっと回ったり、1時間半ぐらいでイベントをやっています。

もう少し中心街ばかりじゃなくて、高階地区にももう少し目を向けていただいて、高階地区をやっぱりふるさととして、子どもたちが「私のふるさとは川越高階です」と言えるような、そういうふうなものの長期間の計画なりを少し高階の地域の人たちと一緒に議論させていただければありがたいなというふうに思っています。いかがでしょうか。

市長 地域全体、子どもたち、特に中高生なんかも加えたようなそういうイベントをいろいろ考えていらっしゃる、なかなか難しい面があるんだけどもという、それは大変地域の取り組みとしてありがたいと思います。

地域会議をつくっていただいて、それぞれその地域の実情に合った元気の出し方といますか、地域をさらに伸ばしていくためにはどうしたらいいのだろうかというようなことを考えていただくために地域会議というものをそれぞれ地区ごとにつくっていただいているということもございます。そこで、考えられた事業に対して一定の補助金を出すということは当然考えておりますので、そういう子どもたちも取り込んだ、お祭りでも何でもいいんですが、それを一つの事業として出していただければ、それに対する一つの金銭的な補助というのは可能です。

議論の中に私も加えよというそういうご提案ではありますけれども、それについては、なかなかそれぞれの地域で同じようなことをやっていたらいい関係で、実際にプロセスの中に加われるかどうか、ちょっとそれは今、返事を留保させていただきたいと思うんですけれども、例えば市のいろいろな関係の職員に立ち会わせるというか、オブザーバーみたいな形で出て、いろいろ地域の皆様方のご意見を執行部のほうに伝える役であるとか、あるいはいろいろなご提案の助言もさせていただくとか、そういうようなことはできると思います。

《地域会議の活動資金》

意見 地域会議と高階の自治連と連携して進めていくわけなんですけど、活動する地域の課題とかそういうものがかなり重複している部分があるわけです。それで、地域会議に力を入れて発展させていくためには、地域会議の独自の活動資金とかそういうものを確保する必要があると思うんです。

ちなみに、前橋の南橋というところに4月に行ったんですが、その推進協議会は、自治会より1世帯月30円、これは1万7,000世帯あるそうです。高階は2万3,000ちょっとですけれども、高階よりはちょっと小さいんですが、月、その1世帯30円で月約50万、それと前橋市の助成金が50万、それと、ここはいろいろ植物を栽培してその種や種油を販売した、そういうものが月大体10万から20万ぐらい収入があるそうです。そうすると月当たり120万ぐらいの資金で運用していると。そこは5部門ありまして、その事業の内容によってそれを出資していくという方法をとっているわけなんですけど、特に環境問題に力を入れているということを知っています。

それでそうすると、この高階の地域会議に置きかえますと、そうした場合、将来的にこの自治連というものが1つはこれがなくなってしまうんじゃないかと。それと2つ目として、この自治連とそれから地域会議との役割分担をして、それで自治連も残っていくか。これまた自治会は、単一の自治会というのはこれはもうなくならないと思うんですね。というのは、これは地域の住民の方が密着していますから。

そういうことで、この点について、川越市として将来的に地域会議と自治連との関係をどのように考えられておりますか。ちょっとお伺いしたいと思います。お願いします。

市長 自治会は、お互いに地域でいろいろ協力し合っていくそのための組織というような捉え方をしております。地域会議は、むしろその地域の課題を取り出して、それに対してしっかり地域でどういうふうに解決していくのか、対応していくのかということとか、先ほど申しましたように、その地域の元気といいますか活力、いろいろな面での活力を出していくためにはどんなことをやっていこうとか、そういうある意味では前向きのそういうような役割を担ってもらいたいという、そういう趣旨のもとで始めていただきました。おっしゃるとおり自治会と地域会議とのすみ分けというか境目というか、その辺のところがいまいち整理しきれていないという面がございますので、その辺については今後、皆様方とよくご意見を頂戴しながらはっきりとした区分ができるような形に持っていきたいというふうに考えております。

市民部長 活動資金について、地域会議については運営費として3万円、それ以外に事業費として、1事業当たり20万円を限度として助成金を交付させていただいています。また、市長からお話しましたとおり、役割分担というのは、活動の対象が重なっている部分がありますので、どうしてもわかりづらくなっているところはあります。他市も同様にこういった動きをしている前提には、自治会の加入率が下がっているという状況がございます。自治会の加入率は今、川越市は77%なんですけれども、ずっと下がっている傾向にあります。

そうした中で、地域が一丸となって課題に取り組むためには、やはりもう少し幅広くいろいろな人の力を結集したほうがいだろうということが一つあって、また、今ある自治会連合会とは別の活動あるいは検討組織として地域会議というものができているという状況もございます。いずれにしてもまだわかりづらいということで、ご指摘いただいている部分もありますので、少し整理をさせていただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

意見 私も今言われたような感じで思っていたんですけれども、最近、地域会議は地域会議でいいなというふうに少し思い始めました。私、否定的な意見だったんですけれども。自治連とどうなんだと。それから、青少年のところについては、いっぱい団体があります。青少年を育てる会だとか何とかと、そんなものがいっぱいあるじゃないかと。その中にもう一つ上に被せて何がいいんだというふうに思っていましたけれども、この前、青少年委員会に来ていただいている団体の方とそれぞれが思われている課題だとかそういうふうなものをみんなで出し合ってみると、自治会だけではわからない課題なり、思っていなかったものがいっぱい出てきたわけです。先ほどのプレーパークの話もそうです。

思いもつかなかったんですけれども、PTAの人が入って一緒に議論した中でやっぱり出てくるということで、そういう意味だと、地域会議は地域会議として課題を出し合うのはとてもいい会議だなと。そこを、例えば青少年を育てる会と自治会が協力してその課題は解決しましょうだとか、そういうふうにそれぞれが分担しながらやっていけばいい話かなというふうに最近ちょっと思い始めています。

ただ、事業費ということになると、最初に金を出して申請をかけるわけですから、最初にお金をどこが出すかというふうなところがやっぱりちょっと躊躇するような感じになります。誰かが立てかえなくてはいけないという話になりますから。

そういう話と、先ほど私、大きな話をしましたけれども、1事業20万円じゃとても足りない。先ほど話がありました橋上化の記念式典、20万円で済むのかというのと、とても済まないですね。あれを地域会議の事業として考えるとすると。100万はちょっと言い過ぎですけれども、20万ではちょっととても1事業としては成り立たないというふうなところがあります。目安としての20万はいいですけれども。限度ということにすると、それこそ小さなものしかやれないというそんな感じになりかねないのかなというふうな危惧はあります。

ただ、地域会議は地域会議でいいかなというふうに最近思い始めました。ということです。

市民部長 ありがとうございました。

《高階地区内グラウンドの設置》

意見 私のほうからは高階全体のことといたしまして、元に戻るんですが、やっぱり公園、今、大きな公園が高階には3つあるわけですね。それでいて、早いうちにソ

フットボール、少年野球、グラウンドゴルフ、この人たちが毎月1日、朝早い人はもう6時ごろから並んじゃうんですかね。こういう現状が今あるんですよ。

だから、一番大きな問題といたしましては、もう一つどこかに総合公園を、本当に市長、もしつくっていただけたら、先ほど言う学校のほうも若干子どもたちが遊ぶような場所がとれるわけですよ。

正直言って、高齢化の時代でございまして、老人が元気なんです。そのためにもう特に高階はグラウンドゴルフが盛んでございまして、グラウンドゴルフをやるのに本当にグラウンドがないという現状があるんです。

だから、高階全体としては、本当に大きなグラウンドをどこかに1つ、これをぜひ高階住民代表といたしまして、市長にお願いしたいと思います。これができますと、いろいろな意味でまた学校も少しあいてくるし、大きな問題だと僕は考えます。時間のほうもなくなります。いかがでしょうか。

市長 そういうご要望があるというのはよく承知しております。なかなかいろいろな面で課題が多い分野ではありますけれども、検討させていただきます。

意見 ぜひお願いしたいと思います。

《新河岸駅周辺の活性化》

意見 今度、駅が新しくできるんですけれども、船問屋をこれに結びつけて、新河岸川を利用してほしいんです。と言いますのは、「川越百景」がありますよね。これを見ていただくと、新河岸は何もないの。市長、見たことありますか。

市長 見たことはあります。

意見 何もない。新河岸川のは一つもないんですよ、これ。ここで切れちゃっていて、百景には入っていないんです。でも、税金は取られているんですよ。

それで、去年、「新河岸川舟運でたどる川越の歴史」というのを11月21日にやったんですよ。だから、これを実行してほしいんです。そして、新河岸の駅をおりると、船問屋がある。

市長 まだ河岸跡があると。

意見 そう。船着き場があって、船着き場に行っても何もないんですよ。草が生えているだけ。船を出して上福岡まで行って、上福岡へ行くと立派な福田屋があるんですね。でも、新河岸の船問屋は民間だから入れないんですよ。そして、今言った寺尾の調節池、あそこを回って、そして寺尾河岸を公園化してほしいの。河川公園にヒ

ガンバナを植えて、自然を取り戻してほしいの。あそこは夏になるとセミがいたりトンボがいたり、キャッチボールでも何でもできる。広いんですよ、結構。自分たちはあそこでごみ拾いをして、県の河川課の認可を受けて、「赤トンボ」というあれでごみ拾いをやっているんですけれども。自分たちのメンバーがだんだん歳をとっちゃって、だんだんできなくなっているんです。ぜひともそこを公園化したり利用してほしいと思いますね。

それから、新河岸駅の東口は川がありますけれども、西口には何もないんですよ。言っては悪いけれども、川越街道しか。藤間の方には農家があるから、それを利用して体験農家、サツマイモ掘りだとか食べるとか、古い農家の家の中を見せてもらうとか。この間行った江戸東京建物のそばですか、ああいう古い民家を保存してそこへ移して、見学できるようにしていただきたい。新河岸をおりたら、こういうところで見学できたり遊べるよと。そうしないと、玄関だけれども、みんな川越に行っちゃうんですよ、お客さん、電車に乗って。おりないの。駅はきれいになったけれども、誰もおりてこないですよ。商店街がだんだんさびれちゃって、自分たち、昭和3年につくった時に会員が130いたの。今は六十何名になって、それも後継者がいなくて、だんだんとよそからの人、チェーン店とかになっていきます。

後になるともう、新河岸はもうおりたからって、道はあるけれども、木が生えていない。この間行った武蔵境ですか、そこは木がいっぱいあって、あそこは平均寿命75歳以上が十何%、川越は8.何%ですよ。早く死んじゃう。木を植えて、豊かな生活ができるようにしてほしいと思いますよ。

それで、船は川越にもありますよね。新河岸はもうボロで、穴があいちゃって、あれ継いだり何かして大変ですよ。1回乗っていただいたと思いますけれども。穴があいちゃっているの、そんなふうなので、よろしくお願いします。

市長 川越に来てくださる観光客の方もふえる傾向にあるんですけれども。

意見 新河岸には全然ないですよ。

市長 ええ、川越市の観光の課題として、中心市街地だけではなくて、もっと周辺部分の観光スポットを開発するというか発掘するというか、そういうようなことをやって、そういうところにも観光客の人に行ってもらわなければならないというのは今、一つの川越の観光の課題として認識しております。具体的なご提案を幾つかいただきました。大変すばらしいアイデアであるというふうに思いますので、検討させていただきますから。

新河岸もそうですけれども、例えば上戸のほうであるとか、あるいは古谷のほうであるとか、それぞれ古くて、皆さんにお見せできるようなものも結構あるんです。それをどうやって生かしていくかというようなことがこのふえつつある観光客に対する対応課題だというふうに考えていますので、それは前向きにいろいろ検討させていただきます。

《バーチャル交番》

意見 簡単にお話ししたいと思いますが、非常に喫緊の問題です。市長からも話があったとおり、駅前交番の話なんですけど、土地の問題とか耐用年数とかそんなことを言っていたらもう開業されちゃうということなので、橋上化駅があと1年。ということは、今年度中に駅前交番問題については解決しないと、間に合わないんですよ。

それで、僕は前から言っているんですが、バーチャル交番とか1坪のホットポリスとか、そういうスポットを設けて、東西につくってほしいんです。じゃないと、今の駅前交番に行くまでに、西口でも100メートルは走る。お巡りさんを連れてまた走る。これで200メートル。自由通路を通過して階段をおりて、倍さらにかかるんですよ。お巡りさんも大変なんですよ。

そういうわけで、もうそういうときにはもめ事はもう消えちゃいますから、犯人も消えちゃうということなので、ぜひ駆け込み的な、監視カメラのついた、声が録音できるような、すぐに今の駅前交番の方、いつも警察官がいらっしゃいますので、そちらと話ができるようなそういうバーチャル交番、1坪いらない、1畳分でいいんです。それをつくってもらわないことには安心・安全が広場前では担保できないというふうに思います。これをぜひ28年度中に、区画整理事務所を中心に考えてもらわないと、1年後、橋上駅でもう竣工式、その際には交番問題はぶっ飛んでいるというふうにならないようよろしくお願いします。

市長 交番をつくるというのは警察の仕事なんですよ。警察のこれまでの流れとしては、どちらかというと交番は統廃合して減らしていこうと、そういう方向で来ているんです。例えば岸町の今地域の防犯ステーションになっているあの場所なんかは、そういう流れの中で、交番として使わなくなったから貸しますよという形で、地元の人が防犯ステーションとして使わせてもらっているということなんです。どちらかというと、県の警察はそういう方向で考えつつある。このような中で、例えば両側に交番をつくるというのは、警察もなかなか「うん」とは言ってくれない。この点は、後ほ

ど副市長に補足してもらいますが。

ただ、今、おっしゃったような防犯カメラをつけるというような問題については、市で対応できる部分であろうかというふうに思います。今までの流れの中では、交差点であるとか商店街の中に防犯カメラを取りつけて、どこでそれを監視しているのか私はわかりませんが、そういうような形での防犯対策というのは今までやってきました。ただ、そういう小さな、ミニ交番みたいな建物をつくって、そこでそういうような機能を果たさせるというのは今まで例もないし、考えたこともないので、可能なかどうか、それは少し検討させていただきます。

市民部長 防犯カメラの設置ということであるとすると、市では防犯カメラの補助というのではないのですけれども、警察のほうでも防犯カメラを積極的につけるようなというような指導はかなりございます。自治体などによっては民間事業者に建ててもらって、民間事業者が社会貢献のような形で地域の安全のために貢献する、というような動きができてきているような地域があったりしています。防犯カメラについては今後どんどんつけていく必要はあると思いますので、行政で全部そういうところをカバーするのかどうかも含め、研究をさせていただきたいと考えております。

意見 地域の防犯カメラの設置ではなく、駅前の広場にそういう防犯カメラの場所を設けて、直に交番とお話できるようにしてほしいというふうに言っているんですよ。

板東副市長 市長から話を振られました。私はこの4月から県から出向するという形で副市長をさせていただいております。当然県警とは直接は関係ありませんが、私は県で予算をすごく長いことやっておりまして、警察の交番がどういうふうに設置されるかなどについては、予算を通して見てまいりました。大体年間、埼玉県内で10から15ぐらいの交番、それは新築だけではなくて移転も含めて、そのぐらいの予算の措置で対応しています。

先ほど市長からお話がありましたように、土地の問題でありますとかさまざまなお金の関係もありますが、県警がやるときの一番大きな課題が人の手配なんです。それで、埼玉県というのは人口急増期がものすごくありましたので、ほかの都道府県に比べまして警察官の数というのは、人口当たり、単位当たり、ものすごく少ない。そのため私が県庁に入ったときに、県の職員が大体1万人いて警察官が7,000人ぐらいだったのが、もう今は県の職員が6,000人で警察官が1万人を超えているぐらいふやしているのですが、やはり間に合わないということになります。そのため、新しい交番をつくるというのは、結構ハードルが高いのかなと。

それで、先ほどアイデアをいただきましたので、それは県警のほうに、「こういうようなものはどうですか」というのは私のほうから伝えてみたいと思います。ただ、やはり今までの交番の関係を見ていると、駅の両側に交番が置いてある駅というのは、なかなか難しいところがあります。大宮駅などにはありますけれども、浦和駅にもありません。ですから、この辺りのご要望については、アイデアとしてはこれから先どういうふうになるのかわかりませんが、埼玉県全体を考えますとものすごい数になりますので、警察がすぐ「はい、わかりました」という状況にはならないかもしれません。ただ緊急事態にどう対応するのかというのはやはり必要な課題ではありますので、警察には私から伝えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

《自衛隊機の川越上空通過》

意見 私は寺尾で畑を借りて、毎日畑へ出勤しています。そこで気がついたというかびっくりしたのが、上空を飛ぶ自衛隊機の多さなんです。この間は、なんとオスプレイまで来てくれました。よくわからないんです。私、自衛隊に反対もしていません。そこが輸送経路で、自衛隊基地から自衛隊までの経路になっているのであれば、それはそれで何もありません。ところが、空中を3回も4回も回るということは、明らかに訓練なんですね。輸送じゃないんですね。ブルーインパルスもこの前来ました。来て、最接近、「落っこちちゃうよ、追突しちゃうよ」というぐらい接近しました。これも訓練なんですね。

だから、我々の上空で訓練をするというのがちょっと合点がいかないんです。今後もしこういうことが続けば、確率的にはそういうふうになりますよね。

市長 ブルーインパルスが来たのは、11月3日に毎年、入間基地で航空祭をやっている、毎年そこにはブルーインパルスが来て、曲芸飛行というんですか、それを披露している。それがこっちまで飛んできたという、そういう関係なんです。

意見 いやいや、1回ならわかるんです。2回通りました。

市長 何回も何回もいろいろな芸を披露するんですよ。背面飛行をしたり、花が開くように5機が広がったりとか、そういうのをかなりやるんです。そういう関係だと思います。

それから、オスプレイが来たのが、私が聞いているところでは、観閲式のときに、それに上空から参加するために飛んできたと聞いています。ですから、訓練のためで

はないと思います。

意見 いいえ、オスプレイは横田基地を飛び立っているんですよ。横田から来るわけがないでしょう。

市長 だから、それは観閲式といった、今言った入間基地の航空ショーとは別に朝霞でやっているわけです。どうしてこの上空を飛んだのか私はわかりませんが、その観閲式に参加するために飛んだというふうに聞いています。

意見 その次の日も飛びましたよ。千葉のほうへ。

市長 ちょっとその辺は私にはわかりません。

意見 詳しいことはわからないんですけども、普通の輸送機じゃなくて戦闘機っぽいのも上空を何回も回るんですよ、日常的に。

市長 その辺についてはちょっと市ではわからない分野ですので、自衛隊等のほうに確認はしてみます。

意見 一度、私、市長さんへの手紙ということで出したんです、これ。そうしたら、県と今後もそういうことについて綿密に打ち合わせして、騒音とかそういうこともないようにやっていきますというお返事をいただいたんです。

飛べば事故は確率が上がります。飛ばなければ事故は起きません。

※後日、地域会議に対し、以下のように回答しました。

川越市上空を飛行する自衛隊等の航空機につきまして、航空自衛隊入間基地及び北関東防衛局に確認したところ、川越市上空は訓練区域には該当していないとのことです。また、他の基地への輸送や訓練区域へ向かうために川越市上空を通過することはあるとのことですが、空路については詳細に定められていないとのことです。

なお、米軍基地である横田基地については、その運用の詳細については北関東防衛局でも承知していないとのことですが、オスプレイの訓練区域については川越市上空は該当していないとのことでした。

先日のように、朝霞駐屯地で開催された自衛隊記念日観閲式や入間基地で開催された入間航空祭など、行事やイベント開催期間前等においては、例外的に予行演習として飛行することがあるようですが、川越市上空を日常的な訓練として飛行することはないとのことです。

引き続き、航空機による騒音の軽減や安全飛行の徹底等を含め、機会を捉えて関係機関へ要望してまいりますので、何卒御理解のほどよろしくお願いします。

《寺尾調節池》

意見 寺尾調節池についてです。この間の大雨で、私は地元なので、雨がやむとすぐ見に行くんですけども、あと1メートルちょっとのところまで来たはずなんですけれども、やばいなと思って、何ら避難とかという話は聞かなかったんです。

後で情報が入ってきたところによると、あそこの水がどうなるかは関係ないことで、何かその注意報みたいなものを出す地点が違うところだとか。そこに常駐されている方もいるんですけども、そこの辺の行政の対応というのはいかがでしょうか。

危機管理監 ただいまのお話は台風9号の8月22日の件、寺尾調節池のあと1メートルちょっとというのは、調節池の堤防があと1メートルぐらいで超えるという、そういうことでしょうか。

調節池の水位を超えて溢水してしまいますと、それこそ水が埋まってしまいますので、それでは調節池の意味がなくなります。そこで、調節池のところにはポンプがありますので、そこで水位を調整して新河岸川のほうに流すという機能があると思います。

それを一遍に流してしまいますと今度は新河岸川の水位が上がってしまいますので、その辺を調整しながら、調節池から一旦はそこにプールしてそれで新河岸川に流していくという、そういうふうになっていると考えておりますが。

意見 あれはモニターか何かでいつも監視しているんでしょう。

危機管理監 そうですね。

意見 カメラでは監視しているけれども、水量を何ミリ降ってどのくらいになるというのは、もっと新河岸の上のほうで監視しているんだよね。それで発表しているんだよね。埼玉県の河川のほうとか、荒川のほうで。新河岸川のがもっと上のほうで何か量っているということは聞いています。

だから、調節池のところで、水量であと1メートルで何メートル来たというのは市のほうへ行っているかわからないけれども、正式に何かもっと上のほうで量っているんだって。雨量の量りは。

危機管理監 新河岸川の水位についてうちのほうで把握しているのは、朝霞のほうの地点での水位を計測しております。

意見 そういうふうに聞いています。ですから、あそこは万が一あふれたら、とんでもないことになるんですよ。確かあれの計画時点では、12年の水害か何か基準になっているはずなんです。でも、昨今の状況を考えたら、12年以上の雨が降るとい

のはあり得るでしょう。

危機管理監 最近の雨量を見ますと、十数年前のころの感じと違うような雨の降り方もありますので、調節池の機能についてもうちちょっとよく調べたいと思います。

意見 お願いいたします。

ちなみに寺尾は、大水が出たときに避難するのは、寺尾中学も寺尾小学校もだめです。だから、早めに出していただかなければ上に行けないんです。「はい、出てきたよ」と言って、「逃げろ」と言ったって間に合わない。

危機管理監 確かに市内の小・中学校が避難所ということになっておりますけれども、水害の場合にはそれこそ大変なことになってしまうおそれもありますので、その辺は十分に考えての避難の勧告であるとか避難準備情報の皆さんへの情報は提供したいと考えております。

市長 長時間にわたりましていろいろなご意見、ご質問等を頂戴しましてありがとうございます。今日お答えできなかった分につきましては、後日、調べた上でご回答させていただきます。

これからも皆様方のいろいろなご意見等を聞きながら、しっかりと行政を進めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。